

令和5年度 第2回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和5年11月24日(金) 10:00～11:30

場所：金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

次 第

1 開 会

2 報告事項

令和5年度事業執行状況について・・・・・・・・・・資料1

3 意見交換等

シビックテックの動向等について（福島会長）
令和6年度事業について

4 閉 会

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区分	氏名	役職	備考
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	中田 明秀	金沢市 PTA 協議会 副会長	
委員	濱田 尚則	一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長	
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ 代表理事	
委員	松井 くにお	金沢工業大学工学部情報工学科 教授	
委員	眞鍋 知子	金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授	
委員	矢後 智子	NPO 法人ネットワークアシストたかおか 副理事長	
委員	山口 いづみ	NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事	

令和5年度事業執行状況

令和5年11月

【報告事項】

1. 地域課題解決プロジェクト事業
2. シビックテックスクールの開催
3. データを活用した課題解決の推進
4. 情報発信事業
5. その他
 - (1) シビックテックミーティングカナザワ 2023 の開催
 - (2) 共創プラットフォーム（地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」）の運用
 - (3) 市民活動DX推進事業

1 地域課題解決プロジェクト事業

市民等が具体的な地域課題（お困りごと）を地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」に投稿し、課題投稿者と解決に取り組んでみたい方が「マッチ箱」に解決アイデア等を投稿し、解決に向けたディスカッションを行う。ディスカッションの結果、ICTを用いた解決アイデアの実現に向けて協働が可能な場合は、「プロジェクトチーム」を結成し、企画を応募する。プロジェクトチームに対し支援を行うことで、地域課題の解決を図る。

(1) 地域課題（お困りごと）募集

- ・募集期間：随時
- ・募集内容：生活している地域の課題や、日頃感じているお困りごとなど、具体的な地域課題を「マッチ箱」に投稿
- ・投稿数：17件（11月10日（金）現在）

(2) ICTを活用した解決アイデアの企画募集

- ・募集期間：【第1期】令和5年9月1日（金）～10月31日（火）
【第2期】令和5年11月1日（水）～12月28日（木）
- ・募集内容：ICTを活用した解決アイデアの企画
- ・応募数：【第1期】0件
【第2期】募集中

※ホームページ、SNSなどを活用し、市民団体等向けの周知をあらためて実施予定。

(3) 課題等

- ・課題及び解決アイデアの投稿件数が伸び悩んでいる。
- ・投稿された課題及び解決アイデアについて、そこから議論が深まるケースが少なく、解決に向けた協働にまで結びついていない。

2 シビックテックスクールの開催

シビックテックやアプリケーション開発、地域課題解決に興味を持つ学生や社会人等を対象に、IT 技術者の指導を受けながら、ノーコードツールを用いたアプリケーションの開発や、Google が提供している各種ツールについて講義・演習を通じて学習を行い、将来のシビックテックプレイヤー候補として育成する。

(1) 受講生募集

- ・募集期間：令和5年8月18日（木）～9月15日（金）
- ・募集対象：シビックテックやアプリケーション開発、地域課題解決に興味がある方
（※16歳以上で、金沢市内に在住又は通勤通学されている方）
- ・応募人数：【ノーコードアプリ開発講座】 11名（受講人数11名）
【Google ツール活用講座】 11名（受講人数9名）

(2) 講座内容等

- ・講義形式
対面による開催（各講座2回）
- ・日程及び内容
【ノーコードアプリ開発講座】

日程	日時・場所	内容
第1回	9月23日（土・祝）14:00～17:00 金沢未来のまち創造館	①シビックテックとは（講義） 14:00-14:30
		②ノーコードツールとは（講義） 14:30-15:30
		③ノーコードツールの演習 15:30-17:00
第2回	10月21日（土）14:00～17:00 金沢未来のまち創造館	④ノーコードツールの演習 14:00-17:00

【Google ツール活用講座】

日程	日時・場所	内容
第1回	9月30日(土) 13:00~16:00 長土塀青少年交流センター	①シビックテックとは(講義) 13:00-13:30 ②Google ツールの演習 13:30-16:00 Google ドライブ、Google サイトなど
第2回	10月28日(土) 14:00~17:00 金沢未来のまち創造館	③Google ツールの演習 14:00-17:00 Google フォーム、Google マップなど

・講師

雄谷 峰志 氏、佐々木 修吾 氏 (一般社団法人コード・フォー・カナザワ)

・講座の様子



ノーコードアプリ開発講座



Google ツール活用講座

(3) 課題等

- ・受講者の受講目的が様々であり、解決したい課題を持って受講している方々に対しては、時間数が不足している可能性がある。

3 データを活用した課題解決の推進

データの収集や活用方法など、データの基礎について学び、自らの課題解決に生かすため、市民や市民団体等向けのデータ活用講座を開催する。

(1) データを活用した課題解決入門講座の開催（予定）

- ・開催日時：令和6年2月3日（土）13：30～16：00
- ・開催場所：金沢未来のまち創造館
- ・講座内容：初心者向け入門講座として、データの基礎について学ぶとともに、データ分析の体験を行うことで、データ活用に関する見識を深める。

第1部：データについての講演

- 【内容】データとは何か、活動にデータを活用するメリット、データの収集方法（オープンデータなど）等についての講演
- 【講師】北陸大学 経済経営学部 田尻 慎太郎 教授

第2部：データ分析体験

- 【内容】データ分析ツール「Tableau」を活用したデータ分析体験
- 【運営】株式会社セールスフォース・ジャパン

4 情報発信事業

シビックテックポータルサイト及び facebook ページを運用し、当協議会の事業や募集について積極的に PR するとともに、企業向け PR 用デジタルパンフレットを作成し、配布・公開する。

(1) シビックテックポータルサイト

・ URL : <https://kanazawa-civic-tech.jp>

・ サイト構成

①協議会事業の紹介

金沢シビックテック推進協議会とは
地域課題プロジェクト事業
データを活用した地域課題解決推進
シビックテックスクール

②シビックテック人材バンク

シビックテック分野で活躍するプレイヤーの紹介及び募集

③他地域事例集

他の自治体等でのシビックテック活動事例や提供サービスの紹介

④シビックテック関連リンク集

全国の Code for 団体及び関連団体の紹介
オープンデータ関連サイトの紹介

⑤お知らせ

協議会事業等についてのお知らせを随時掲載

・ ページビュー数 : 7,682 (令和5年1月1日~令和5年11月12日)

(参考) ページビュー数 : 8,451 (令和4年1月1日~令和4年12月31日)

9,595 (令和3年1月1日~令和3年12月31日)



(2) facebook ページ

- ・フォロワー：80名（令和5年11月12日時点）
- ・投稿件数：13件（令和5年1月1日～11月12日）



(3) 企業向けPR用デジタルパンフレット

IT関係企業及び企業に勤務するエンジニア等を対象に、シビックテックの紹介や参加するメリット等を紹介することで、シビックテック活動への参加を促す。

・概要

デジタルパンフレット（PDF形式）、A4 4ページ程度

・構成案

- ① シビックテックとは
- ② 金沢でのシビックテック活動について
- ③ シビックテック活動に携わる方々へのインタビュー
- ④ シビックテック活動に参加するには

・スケジュール

現在作成中（令和6年1月頃公開予定）

(4) 課題等

- ・ポータルサイトのページビュー数が伸び悩んでいる。
- ・デジタル関係に馴染みがない方々へ周知する手段が限られている。

5 その他

【シビックテックミーティングカナザワ 2023 の開催】

これまでシビックテック活動を市の内外に周知する全国大会として「シビックテックサミット」を開催してきたが、今年度より地域の市民や団体等を主な対象としたイベントにリニューアルした。シビックテックに取り組む方々や興味がある方々と、地域課題を持つ方々が実際に顔をあわせ、協働につなげるためのイベントとして開催した。



・日 時：令和5年11月18日（土）13:00～17:00

・場 所：金沢未来のまち創造館

・参加者：26人

・概 要：【パート1「シビックテック入門」】

内容：シビックテックの概要やこれまでの取組成果、全国的な動向などについて解説

講師：雄谷 峰志 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

【パート2「ChatGPTで地域課題解決」】

内容：ChatGPTに課題を入力し、解決アイデアを出力する方法を学ぶ。参加者は各自のPCで無料版を操作し体験

講師：高木 志宗 氏（アイパブリッシング株式会社）

【パート3：「リアル「マッチ箱」で課題解決体験」】

内容：マッチ箱から課題を一つ選択し、参加者全員で解決アイデアを考え、プロトタイピング（画面イメージ）を作成

ファシリテーション：福島 健一郎 氏、雄谷 峰志 氏、おばた みなこ 氏（一般社団法人コード・フォー・カナザワ）

プロトタイプ作成：河西 紀明 氏、道家 陽介 氏、宮島 大樹 氏（フレンズ・オブ・フィグマ・イシカワ）

・課題等：市民や団体、企業等へのシビックテックのさらなる周知を進める必要がある。

市民や団体、企業等が興味を持ち、参加していただきやすいテーマやキャッチコピーの選定を図る必要がある。

【共創プラットフォーム（地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」）の運用】

地域課題の解決に向け、市民や団体、企業、シビックテックコミュニティ、市など、課題を持つ方々と解決に向けて一緒に取り組んでみたい方が集い、ディスカッションを行い、解決に向けた協働を行うためのプラットフォーム「地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」」について、本格運用を開始した。

- ・ 本格運用開始日：令和5年7月24日（月）
- ・ 投稿課題数：17件（11月10日（金）現在）
- ・ 登録者数：102名（11月10日（金）現在）

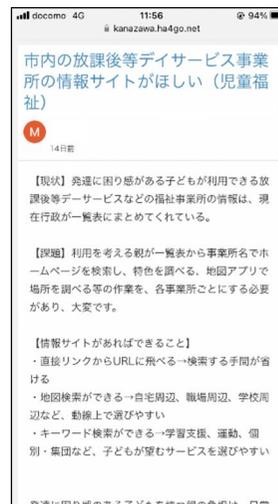


【投稿された課題（例）】

- ・ いつ除雪車が家の近くの道を除雪してくれるのか気になる
- ・ 若い世代への周知方法、困りごとの解決マッチング方法
- ・ 訪問看護ステーションの見える化 等

【課題解決の事例】

- ・ 投稿された課題に対し、Google マップを活用した解決アイデア及びその手順等が参加者より投稿され、課題投稿者が自らマイマップを作成し、解決した事例が1件あった。



【課題等】

- ・ 課題及び解決アイデアの投稿件数並びに登録者数が伸び悩んでいる。
- ・ 投稿された課題及び解決アイデアについて、そこから議論が深まり解決につながるケースが少ない。

【市民活動 DX 推進事業】

地域活動のデジタル化を推進するため作成した「地域活動デジタル活用ガイド」を活用し、「地域活動デジタル活用講座」を地域団体へ展開する。

(1) 地域活動デジタル活用ガイド

LINE や Zoom、Google ドライブ等の基本的な操作方法や、実践例としてオンライン書面決議やオンライン総会の開催方法について記載。

(2) 地域活動デジタル活用講座

【全体講座】

①対象

校下（地区）町会連合会の事務職員等 ※受講者は各町会連合会より推薦

②開催日時及び受講人数、内容

第1回：令和5年7月19日（水）14:00～16:00 受講人数：10名

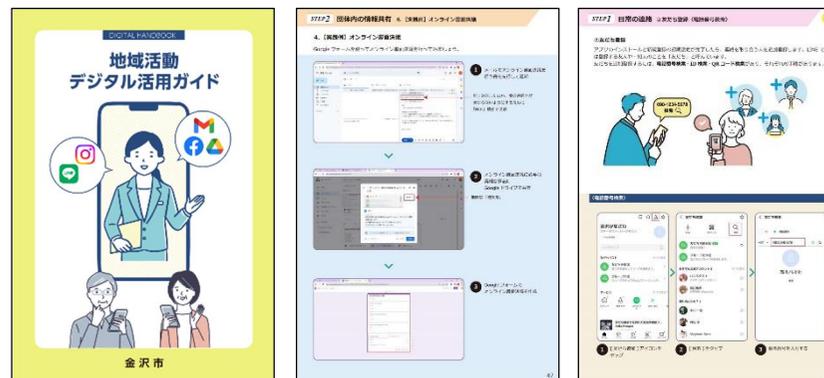
Zoom 会議の開催やハイブリッド会議のための外付けカメラ等の活用、SNS による情報発信 など

第2回：令和5年7月25日（火）14:00～16:00 受講人数：12名

Google フォームによるアンケート等の作成、Google ドライブによるデータの共有、Gmail による案内 など

③開催場所

長土塀青少年交流センター 4階 大集会室



④講師

石川 きょうこ 氏（金沢市市民活動サポートセンター ICT 分野外部アドバイザー）

【個別講座】

希望する地域団体に対し、講師等を派遣し個別講座を開催予定

(3) 課題等

- ・地域活動デジタル活用講座について、応募がない校下（地区）町会連合会へいかにアプローチするか。
- ・講座を受講した校下（地区）町会連合会に対して、以降のデジタル化をどのようにサポートするか。

令和5年度第2回 金沢シビックテック推進協議会 会議概要

日時 : 令和5年11月24日(金) 10:00~11:40

場所 : 金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

出席者: 小俣 博司 オープン川崎 代表

中田 明秀 金沢市PTA協議会 副会長

濱田 尚則 一般社団法人石川県情報システム工業会 副会長

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

松井 くにお 金沢工業大学工学部情報工学科 教授

眞鍋 知子 金沢大学 融合研究域 融合科学系 教授

山口 いづみ NPO 法人あかりプロジェクト 代表理事

(五十音順)

事務局 紙谷市民局長、木谷市民協働推進課長、山田市民協働推進課長補佐、神田係長、吉本主事

1. 報告事項等

令和5年度事業執行状況について 資料1

意見交換等

2. 委員意見等

令和5年度事業執行状況について(資料1)

【委員】

地域課題解決マッチングボックス「マッチ箱」に、ファシリテーターのような人物は存在しないのか。

【委員】

ファシリテーターと名乗ってはいないが、コード・フォー・カナザワの中で1名、投稿内容のチェックや、議論が煮詰まっているときに動かしていくような担当は存在する。

【委員】

「マッチ箱」のような仕組みは、最初のほうはなかなかうまく運用しにくいと思う。

ある程度運用が軌道に乗るまでは、この課題についてはこの人が解決できる。というような直接的にファシリテーションを行う役割が必要であると思う。

【事務局】

ファシリテーターについては、投稿内容にもよるが、市民活動サポートセンターのコーディネーターなどが考えられる。

【委員】

様々な事業の基幹になるものが「マッチ箱」だと思った。

「マッチ箱」には課題がいくつも投稿されているが、解決したか一目でわかる機能はないか。現状では、課題が放置されているように見えてしまう。

また、地域課題解決プロジェクト事業でも説明があったが、「マッチ箱」に課題を投稿し、プロジェクトチームを作成し、解決アイデアを応募する、という事業のプロセスがわかりづらいように感じたが、課題投稿数や解決アイデアの応募数を増やすための今後の展開はあるか。

【事務局】

現時点では、解決済みの課題が一目でわかる機能はなく、課題投稿者が「解決しました」という旨の投稿をしないとわからない。

また、実際に運用した結果、課題投稿者と解決アイデアを持つ方との議論を深めるためには、オンラインだけでなく対面の場が必要であると感じており、今後実施に向けて検討したい。

【委員】

「マッチ箱」に投稿されている課題の投稿日時から、あまり活発に動いていない印象を受けるので、動いているように見せる必要があると思う。

また、シビックテックを使わずとも解決できる地域課題を投稿することもアピールしたほうがよいと思う。今の状態は、シビックテックを使った課題解決に重点を置いているのか、課題の可視化に重点を置いているのか、わかりづらいように思う。

【事務局】

最終的な目標は課題の解決だが、現時点では様々な方に使っていただけるよう、利用者の裾野を広げ、地域課題を可視化するという事に重点を置いている。「マッチ箱」の利用方法については、よりわかりやすい周知に努めたい。

【委員】

「マッチ箱」の課題募集について、どのような周知を行ったのか。

また、課題について「地域課題を投稿してください」だとテーマが広すぎるので、ある程度絞って投稿を促したほうが投稿しやすくなるかもしれない。ICTなど専門用語が出てくると、サポートが必要と思われる。

社会福祉協議会などに出向き、サポートを行いながら投稿する体験を行うなど、地道に広報するしかないと思う。

【事務局】

課題募集については、金沢市公式ホームページ、SNS、シビックテック推進協議会のホームページ等で行ったが、「このような課題が投稿されました」という周知はほとんど実施していないのが現状である。

「マッチ箱」の広報は、ボランティア大学校のイベントやシビックテックミーティングなど、課題を持っている方が多く集まりそうな場へ赴き実施した。地域課題解決プロジェクト事業の広報は、公民館や市民活動団体にチラシやメール等を送付し、実施した。

【委員】

「マッチ箱」で場を盛り上げる人は必要だと思う。ファシリテーターに対する謝金を予算計上してもよいのではないか。

また、課題の投稿は「マッチ箱」で行い、解決アイデアの応募はシビックテック推進協議会のホームページ等で行うことが、少しわかりにくいように思えた。例えば、「マッチ箱」にも解決アイデアの応募方法を投稿するなど、応募方法について様々な方法で広報をしたほうがよいと思う。

「マッチ箱」だけを見ると、随時ディスカッションを行っていけばよいのかなという印象を受けた。

質問としては、

- ①解決アイデアの企画募集はどのようなルートがあるのか。
- ②「マッチ箱」に現在登録されている106名は、どのような人がどのようなルートで登録したのか把握はできているのか。
- ③シビックテックスクールとデータ活用講座の違いを教えてください。

【事務局】

①の回答は、解決アイデアの募集については、マッチ箱と地域課題解決プロジェクト事業でそれぞれ実施している。

「マッチ箱」では、投稿された課題に対する解決アイデアの募集は、「マッチ箱」に投稿いただく仕組みとなっている。広報については、ホームページや SNS のほか、ボランティア大学校のイベントやシビックテックミーティングなどで周知を行った。

一方で地域課題解決プロジェクト事業では、「マッチ箱」に投稿された課題を、ICT を使って解決するアイデアを企画書にまとめ、応募していただく仕組みになっている。広報については、ホームページや SNS のほか、チラシを活用し、市民団体等に対して周知を行った。

②の回答は、「マッチ箱」の広報をボランティア大学校のイベントやシビックテックミーティングなど、多くの方が集まる場で行うことがあり、その都度登録者数が増加するので、その場で興味をもってくれた方が登録していると思われるが、Google アカウントで登録するという仕組み上、必ずしも本名で登録する必要がなく、どのような方が登録しているかというところまでは把握できていない。

③の回答は、シビックテックスクールは、課題を持つ方が自身の課題解決に生かせるよう、具体的なスキルを身に付けていただくことを目的としており、データ活用講座は、データ活用方法についての基礎を学び、データを用いた課題解決の重要性について知ってもらうことを目的にしている。

【委員】

事業の周知については、町会の集会に市の職員が来て取り組みを説明することもあるので、そういったアナログな方法も効果的だと思う。

また、市民活動 DX 推進事業について、地域活動デジタル活用ガイドというとても分かりやすいものを作られている。

結ネットは市民全体の IT リテラシーを上げるのに有効なアプリだと思うので、結ネットの導入地域を増やすきっかけにするためにも、地域活動デジタル活用講座を積極的に広めてほしいと思う。

【事務局】

市民活動 DX 推進事業については、デジタル技術の活用を、町会の方だけではなく、町会連合会の事務員にも広めていくことが課題だと認識している。

対面などアナログなやり方で、機会をとらえて周知していくことは効果が高いと思っているので、まずはそのような方法で周知を行っていく。

【委員】

「マッチ箱」について、委員の意見のとおり、場を温める必要は確かにあると感じた。また、課題の投稿というと間口も広いので、テーマを絞るのも効果的であると思った。

地域課題解決プロジェクト事業と「マッチ箱」の関係性が確かにわかりづらいので、発信し続けなければならないと思う。現状は課題の投稿数も少なく、とりあえず様子見で登録してみたという人だけではなく、より地域課題に近い方にも登録してもらえれば、今後の活性化につながるので、地道に活動を継続

していく必要がある。

また、企業向け PR 用デジタルパンフレットについて、IT 関係企業やその社員を対象にシビックテック活動への参加を促し、地域課題を抱える方の声を聞くことは、最終的に企業のビジネスにつながることもあり、シビックテックの価値も高まっていく。その一歩として良い方法であると思っている。

シビックテックスクールは毎回受講者からの反応がよいと聞いているので、シビックテックの浸透にも有効であると思う。

【委員】

企業向け PR 用デジタルパンフレットに、金沢市労働政策課の「金沢市はたらく人の地域活動促進奨励金」について掲載してはどうか。企業が社員をシビックテック活動に参加させるインセンティブになるのではないかと検討してみたい。

意見交換等

【委員】

オープン川崎では、専修大学の学生と地域の問題を考えながら解決する事業を行っている。

昨年は大学生にポッドキャストの番組を作成してもらい、またそこで出た意見をポッドキャストで番組にするという取り組みを行った。

最近では、選挙の投票を促すアプリを作成し、商店街の方にも賛同してもらいポスターを貼るなど、様々な団体を巻き込んで事業を進めている。

【委員】

町会・自治会は全国的に IT 化されていないというのが現状だと思う。

町会・自治会が IT 化されれば、シビックテックとのつながりが生まれ、IT リテラシーも高まり、そこがシビックテックの入口になると思う。

時間はかかると思うが、町会・自治会の現状の調査から始めてみてもよいのではないかと。

【委員】

最終的な目標はシビックテックという言葉がなくても IT 化を理解していることであり、町会・自治会の IT 化がその入口になることはその通りだと思う。

【委員】

地域性の違いは肌で感じている。IT化について興味のない方に広めていくためには、IT化のビフォーアフターを見せることが有効だと思う。

また、北陸の方は警戒心が強いと思うので、「マッチ箱」のファシリテーターについては、ファシリテーターだと一目でわかるようなアイコンにして活動したほうが受け入れられるのではないかと思う。

【委員】

シビックテックの入口としては、シビックテックという言葉を出さず、AIやChatGPTなど流行りの言葉を入れるといいかもしれない。

【委員】

「テック」という言葉が出てきているためシビックテックミーティングに参加しないという方がいらっしやった。

シビックテックという言葉を出さずに、こういうのがシビックテックですよ、と後付けで説明をすることも大事であると感じた。

【委員】

金沢市にも大学生がたくさんいるので、小俣委員と同様に、大学生とともにシビックテックに関するプロジェクトを実施できないか。

【委員】

意外だったのは、シビックテックと聞いて理系学生が集まるかと思っていたが、文系の学生も結構集まったことだ。

【委員】

大学のカリキュラムに組み込むととてもやりやすい。金沢工業大学でいうと、プロジェクトデザインという卒業研究に相当するものがある。

ボランティアでとなると難しいが、単位を取るためにも使えるとなると学生も飛び込んでいきやすい。

【委員】

専修大学の例では、キャリアデザイン課という就活をサポートしている課が行っている。

単位は出ないが、キャリア形成という目標が決まっている3年生にとっては、履歴書にも書けるという点がモチベーションになっている。

【事務局】

今年度、金沢工業大学との連携事業で「プロジェクトデザインⅡ」という事業があり、シビックテックに興味をもった学生にご協力いただいた。

市が課題を説明し、学生がそれに対する改善策を考えていただく。という流れで、キャラクターを使って参加者を集めることや、首都圏から技術者を招くなど、様々な面白いアイデアを提案いただいた。

【委員】

地域課題を自分たちで解決していこうという機運を生み出すことが大事だなと感じた。

シビックテックをきっかけとして、地域とNPOや大学等が関わり、コミュニティが動いていけばよいと思った。

【委員】

シビックテックの入口を大きくし、垣根を低くすることは、今回の会議を通じて改めて感じた。

また、すべてWeb上で行うことは難しいという話もあったように、対面でのエネルギーも感じている。

【委員】

令和6年度の事業としては、大学連携をもっとしていけばよいのではと思った。また、若い人との交流が人材育成にもつながると思った。

地域活動デジタル活用講座などを粘り強く行い、町会の人に関心を持たせてITリテラシーを上げることを少しずつでも行っていくことが大事だと感じた。

【委員】

シビックテックの浸透と人材育成について、実際にシビックテックに携わるかは別としても、そういった方が一人でも多く育成されることが大事であると感じた。